

前田建設工業株式会社 様

大型スクリーンにeYACHOの画面を映して情報共有 現場のコミュニケーションツールとして今後も期待



前田建設工業株式会社では、建設現場の働き方改革としてタブレット端末とデジタル野帳「eYACHO for Business」(以下、eYACHO)を活用し、施工管理業務の生産性を向上させる取り組みを行っている。

その取り組み事例について、東京建築支店 畠中雅英氏、東京土木支店 小泉氏、笠井陽介氏、建築事業本部 三浦信一氏、土木事業本部 工藤敏邦氏、笹倉伸晃氏、情報システムセンター 新井祐二氏、海老沼博幸氏に話を伺った。

「eYACHO」を土木、建築の両部門に導入

職員の1日の労働時間を分類したところ、「現場管理・点検」「資料作成」「会議・打合せ」「書類整理・保存」が3/4を占めてました。この4つの業務をもっと効率化できないか？ ICT活用ツールに求める条件は、現場のコミュニケーションが活性化する情報共有ツールであること。社員の働き方はさまざま、勤務場所でツールが変わるとまたゼロから覚えなければならないため、ツールの統一が必要だったこと。これらの条件から多くのツールの中で評価が高かったeYACHOを土木、建築の両部門に導入した。(新井氏)

朝礼や昼礼で、大型スクリーンにeYACHOの画面を映して情報共有

朝礼では、作業計画図の説明が日課となっている。eYACHO導入前は、代表者が情報をまとめてホワイトボードに書き込んでいた。打ち合わせ直前に作り込んだり、情報を差し替えたり、かなり煩雑だった。eYACHO導入後は、eYACHOで作成し、各職員が情報を書き込めば作業計画図が作成できるというシンプルかつ効率的な仕組みに変わった。eYACHOなら思った時にすぐ書き込むことができる。指のピンチアウト操作で拡大表示できるなど、朝礼では会場の後ろにいる人でもよく見えると好評だ。(畠中氏)



大型スクリーンに eYACHO の画面を映して情報共有

遠隔地でもeYACHOのライブなシェア機能でコミュニケーション

事務所が2カ所ある現場では、eYACHO導入前は別々に終礼を実施していたが、現在はWeb会議とeYACHOを使って離れた場所でも合同で終礼を実施している。eYACHOのシェア機能を活用することで、担当者は事務所以外の外出先・現場からも参加でき、写真や図面、表を貼り付けてリアルタイムに報告ができています。

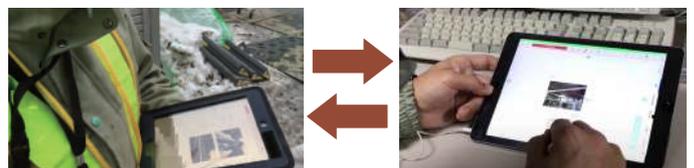
現場で広がるeYACHOの活用法

当初は予定していなかったeYACHOの利用法がある。それは、搬入予定表の配布だ。大きな現場では搬入用のゲートが複数あり、ガードマンに事前に搬入予定を伝えておく必要がある。これまでは紙に書いて配っていたが、今ではeYACHOで複数のスケジュールを一つにまとめて搬入予定表を作成している。この方法に変えてからは、情報伝達の漏れが少なくなった。(畠中氏)

現場のコミュニケーションツールとして今後も期待

「eYACHOを共有のメモ帳として使うように、他の現場も含めて指導しています」と三浦氏は語る。工事の管理業務に限らず庶務、福利厚生との連絡などは、eYACHOの共有ノートに書き込んで記録に残すツールとして活用している。

また、最近の若手には人とのコミュニケーションが苦手な人が多いそうだ。この世代がeYACHOを実践的に使う



遠隔地の現場から報告

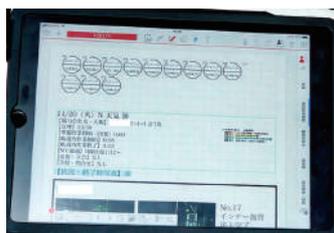
事務所での確認

ことで、コミュニケーションが円滑化するのではないかと今後の利用に期待している。(三浦氏)

鉄道現場の昼夜引継簿や作業手順書に活用

「鉄道現場は、昼夜分かれて作業しているため、昨日の夜どんな作業が終わったか、昼にどんな内容を行ってほしいか、引き継ぎを大学ノートで行っていたが、今はeYACHOを活用しています」と笠井氏。eYACHOの画面には、昨日の夜間で行われた作業と職員、職長の承認印欄がずらっと並んでいる。誰が確認したかが一目で分かる。「実際の作業は写真付きで残しています。昼の職員へ引き継ぎとして、引継内容、引継者を記入し、eYACHOのボタン機能を使って、次の引継内容のノートにすぐにジャンプできるようにしています」

eYACHOの便利な機能を使うように利用できている。(笠井氏)



昼夜引継簿画面

安全注意などを多彩な表現で細かく伝達し、ミスを軽減

「今までは、文字と少しマンガ絵というものだったが、eYACHOを使うようになってからは作業の流れをステップごとに写真を入れて、コメントを入れて、安全注意事項も入れてと細かく作れるようになりました。現場に行って、職長さんと打合せして作り込んでいけるのがとてもいいです」(笠井氏)



作業手順書に写真を貼り付け、コメントを記入することでミスを軽減



現場で操作ができるので、事務所での作業が半分に短縮に繋がった

一番の効果は、現場で操作ができ短縮に繋がっていること。これが一番大きい。「導入前は、昼夜引継簿は大学ノートに手書きで行っていたため、職員が3人いると、誰かが書いていると順番待ちでした。また事務所に戻らないと記入できなかったのが不便でした。今は、現場にいながら引継簿に書けるようになり、どこにいても、いつでも確認できるようになったので非常に便利です。事務所に戻っての作業が半分に短縮になりました」と語る。(小泉氏)

建築事業部門から土木事業への広がり

紙の野帳は個人利用であり、情報量も手書きのため少ない。上司への報告用に別に資料を作る必要があったため、事務所での作業も時間がかかっていた。そのような時に、iPadが導入され、ツールを探し中でeYACHOに出会った。「昔のスタイルは、カメラや野帳を持って測量や施工管理を行い、写真や動画を撮影し、必要事項を書いて、その後事務所に帰って発注者への説明資料を作成します。別々のツールで行っていたことを一つの報告書にまとめていました。eYACHOは、測量・写真・動画・資料作成と全てのことが一つできるので非常に便利です」と工藤氏は語る。当初は、建築事業部門でeYACHOの導入をしたが、徐々に土木事業にも広がり、今ではなくてはならないツールになっている。(工藤氏)

eYACHOの導入効果

「eYACHOを導入した効果として、今までは紙だった回覧がeYACHOを使うとクラウドでつながるので、外出先でも確認できる、情報が共有できるのがメリットです。机の上に書類が溜まることなくになりましたね」コストに換算は難しいが、合理化は進んで、作業時間が短縮された実感する。

eYACHOにあるシェア機能を使うと遠く離れた所でも同時に同じ画面を見ながら、手書きメモや指示を出したりできるので、Web会議が非常に分かりやすくなったことは、eYACHOの効果が大きい。「今後は、所内での情報共有だけでなく、それを発注者や前工程・後工程の方々とも同じノートを見る環境を整えることができれば、さらに業務の効率化が進むのではないかと思います」(笹倉氏)



情報システムセンター
施工・技術系業務革新グループ
グループ長 新井祐二氏

東京建築支店
有明北A街区 作業所
課長 畠中雅英氏

建築事業本部 建築技術部
施工支援グループ
グループ長 三浦信一氏



東京土木支店
工事課長 監理技術者
笠井陽介氏

土木事業本部 土木技術部
ICT推進グループ
グループ長 工藤敏邦氏

土木事業本部 土木技術部
ICT推進グループ マネージャー
笹倉伸晃氏

お客様プロフィール

前田建設工業株式会社

本店：東京都千代田区富士見二丁目10番2号

URL：<https://www.maeda.co.jp/>

2018年11月取材

問い合わせ先
開発・販売

 MetaMoJi

株式会社MetaMoJi

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル EAST 4F

TEL 03-5114-2912 FAX 03-5114-2526

URL <http://metamoji.com/jp/>

EY-MKK-201901-1 2019年1月現在